

# トラック輸送情報（平成14年 5月分）

平成14年 7月31日  
 国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課  
 担当：金子、荒木 内線28315  
 直通03-5253-8342  
 ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

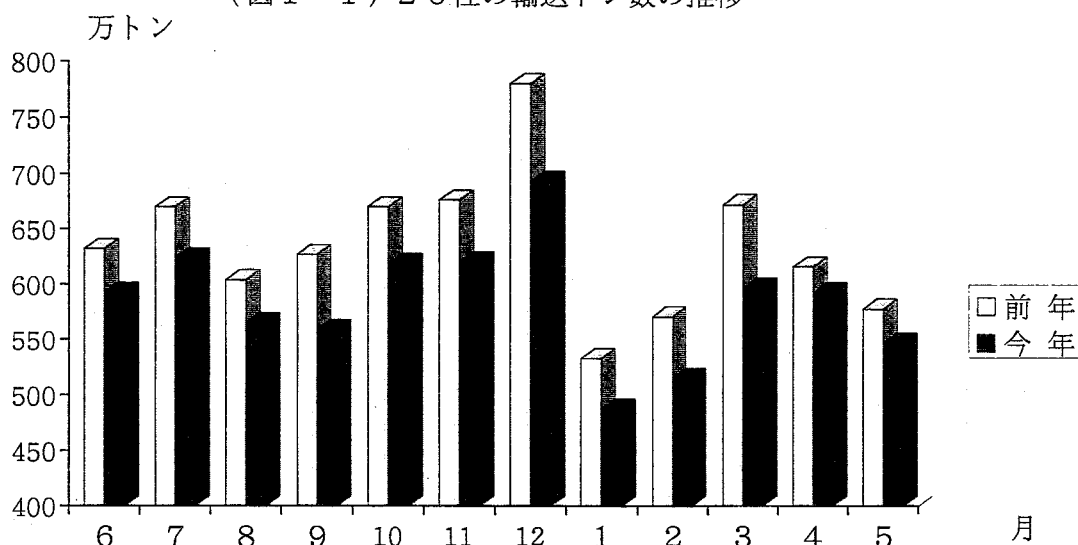
## 1. 特別積合せ貨物

### (1) 本月の輸送状況

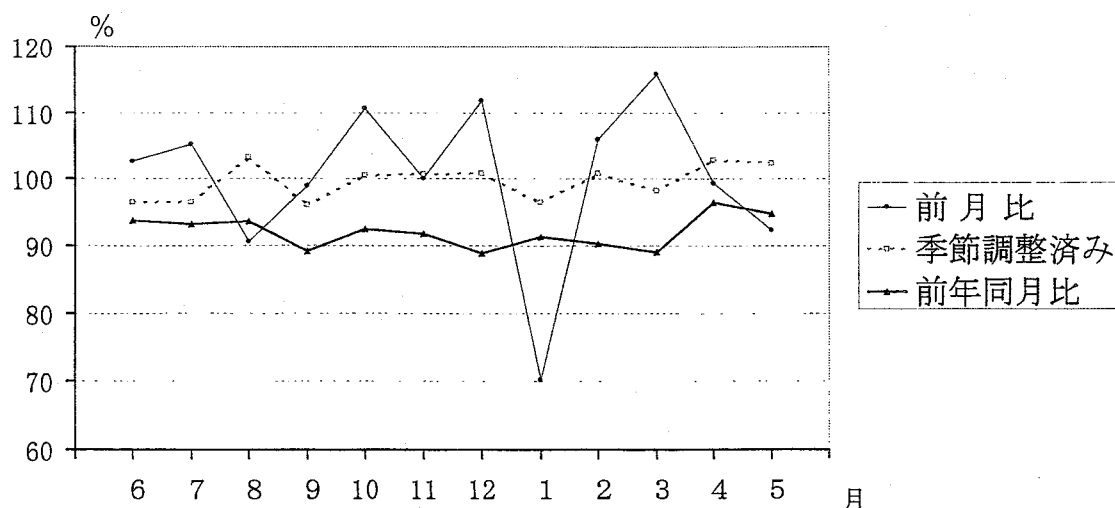
調査対象26社の本月の輸送量は5,474,539トンで、前年同月比 94.7%、前月比 92.3%（季節調整済み102.4%）の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は、22.6日、稼働1日当たりの輸送量は242,236トンで、前年同月比 98.9%、前月比 96.3%となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移

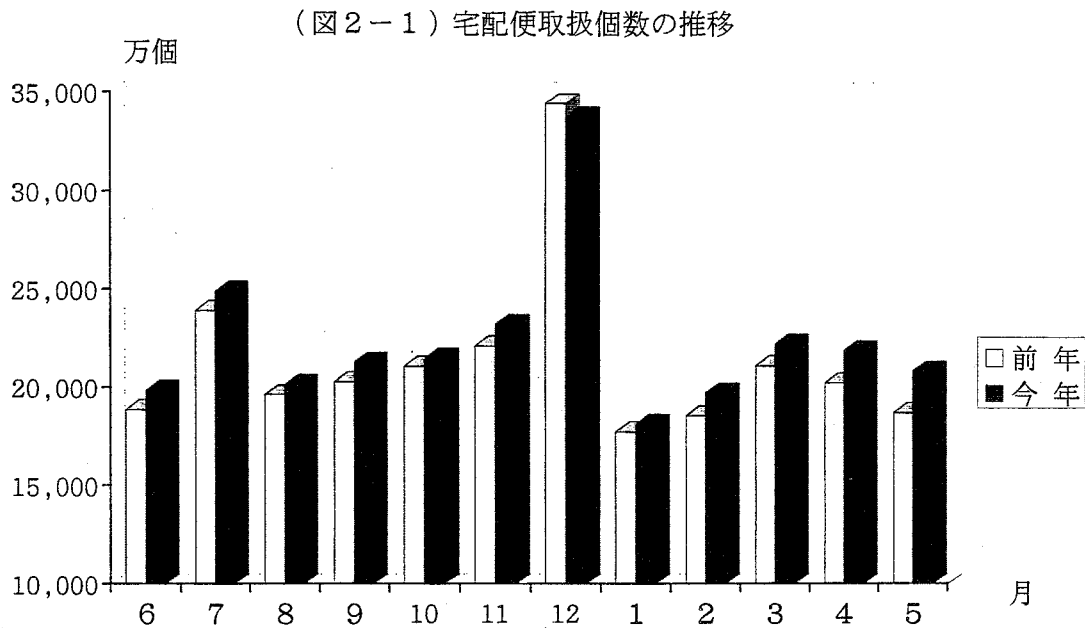


（図1-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比

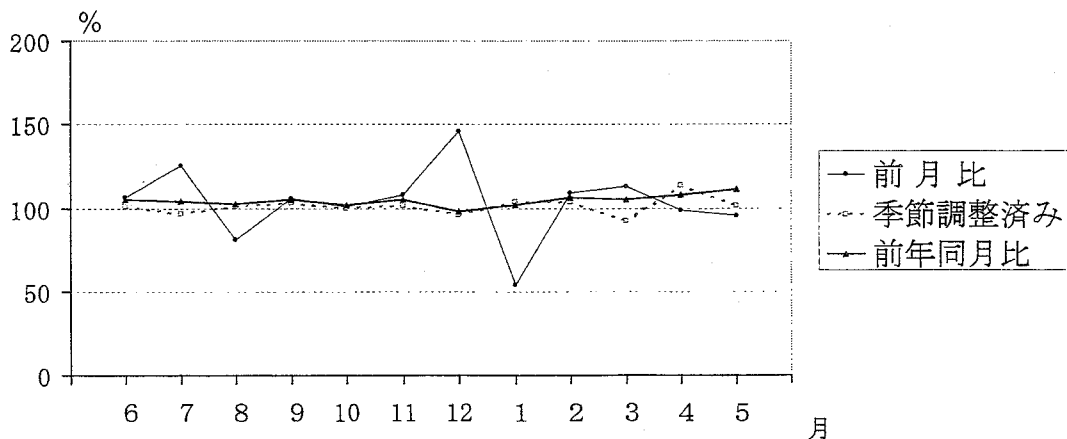


## (2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は208,282,515個であり、前年同月比111.3%、前月比95.2%（季節調整済み101.2%）であった。（図2-1、図2-2参照）



(図2-2) 前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



## (3) 本月の輸送動向

本月の輸送は、前月と比べ、平均稼働日数は1日減少し、稼働1日当たりの輸送量は約0.9万ト減少したため、前月比96.3%の実績となった。総輸送量についても先月と比べ約46万ト減少したため、前月比92.3%の実績となった。宅配便についても約1044万個減少したため、前月比95.2%の実績となった。

前年同月と比べると、平均稼働日数は1日減少し、稼働1日当たりの輸送量は約0.3万ト減少したため、前年同月比98.9%の実績となった。総輸送量についても、約31万ト減少したため、前年同月比94.7%の実績となった。宅配便について、約2108万個増加したため、前年同月比111.3%の実績となった。

## (4) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、大型連休の影響もあって、前月と比べ、全ての品目において減少傾向にあった。中でも、日用品が全国において、工場・生産地からの貨物減を主な理由として減少している。

前年同月と比べると、ほぼ全ての品目において減少傾向にあった。中でも、日用品が全国において、工場・生産地からの貨物減、不況を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	変らず	減	著減					
前月に比べて	農水産品		2	7	7	1	青果物	中国	4, 8
							青果物、魚介類	関東	4
	金属製品		1	12	7		家庭用金属製品	関東、愛知	5
							電気製品、建築用金属製品	関東、近畿	4, 8
	機械		1	9	11		自動車部品		
							家電、自動車部品、電子部品	関東、近畿	4
	化学工業品		1	8	13		化学薬品、合成樹脂	関東、中国	4
							化学薬品	関東	4
	繊維工業品			12	9	1			
							織物	関東	4
食料工業品			7	13	1				
						製造食品、加工食品、飲料	関東	4	
日用品		1	5	14	1		兵庫	2	
						一般貨物、身廻品、雑貨品	全国	4	
その他		2	8	8	1		全国		
						宅配貨物、カタログ、百貨店商	関東	4, 8	
前年同月に比べて	農水産品		2	9	5	1	農産物	中国、九州	4
							青果物、魚介類	東京	4
	金属製品		1	12	6	1		関東、近畿	4
							電気製品、建築用金属製品	近畿	4
	機械		3	9	7	2		関東、近畿	4
							精密機械、自動車部品	関東	4
	化学工業品		1	12	8	1		関東、近畿	4
							石油製品	関東	4
	繊維工業品		2	12	7	1		関東、近畿	4, 5, 9
							織物	関東	4
食料工業品	1	7	5	7	1	加工食品	関東	4	
						加工食品、飲料	関東	4	
日用品		4	7	7	3	一般貨物、雑貨品	全国	5	
						身廻品、雑貨品	全国	4, 9	
その他		3	8	7	1	宅配貨物	全国	5	
						宅配貨物、カタログ、百貨店商	関東	4, 9	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都府県(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都府県を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 854社／調査対象事業者数 1,065社）の輸送量は、前年同月比 96.2%、前月比 97.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	新潟	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	96.2%	98.7%	99.2%	86.2%	92.7%	94.7%	97.1%	97.9%	99.5%	96.3%	103.8%
前月比	97.3%	108.8%	97.2%	91.7%	93.6%	95.9%	95.6%	90.9%	95.1%	95.0%	87.7%

### (2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、季節的な需要減による「動植物性飼・肥料」「その他の石油製品」に輸送減が見られたものの、公共工事の増加に伴い「砂利・砂・石材」「セメント」等の土木建築関係の資材の輸送増が見られたため、対前月比108.8%という結果になった。また、対前年同月比は98.7%とやや低下した。今後の輸送見通しは、次月及び以降は上昇傾向にある。</p>
東北	<p>本月の輸送は、大型連休による稼働日数の減少や季節的な灯油や農業用肥料の輸送量の減少、さらに公共工事の削減等により、対前月比97.2%の実績、また対前年同月比についても99.2%と共に下回る実績となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともにほぼ横ばい傾向にある。</p>
新潟	<p>本月の輸送は、大型連休による工場・倉庫からの出荷量減、公共工事減少による関係資材の生産調整や関係資材の輸送減、農業関係の季節的な需要減による「穀物」「セメント」「化学肥料」等を中心とした輸送減があったため、対前月比91.7%と大きく減少した。特に公共工事が昨年よりも減少していることから対前年同月比も86.2%と大きく減少した。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい傾向にあるが見通しは厳しい。</p>
関東	<p>本月の輸送は、大型連休による稼働日数の減少により「機械」「日用品」等を中心に輸送減が見られたため、対前月比93.6%の実績となった。また長引く不況の影響により、対前年同月比も92.7%と依然として厳しい状況である。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、大型連休による稼働日数の減少や受注の減少による「日用品」「取り合わせ品」「鉄鋼」「機械」の輸送減が目立ったことにより対前月比95.9%、対前年同月比も長引く不況の影響により94.7%の実績となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降共にわずかながら上昇傾向にあるが、厳しい状況は続くものと思われる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、一部品目に輸送増もあったが、全体的には大型連休による営業日数の減少により「鉄鋼」「セメント」「日用品」等を中心に輸送減が見られ、対前月比95.6%の実績となった。また対前年同月比は97.1%と依然として厳しい状況である。今後の輸送見通しは次月及び以降共にわずかながら上昇傾向にあるが、地方部では依然として厳しい状況である。</p>
中国	<p>本月の輸送は、大型連休により工場や卸業者が休業し、稼働日数の減少により全般的に輸送減が目立ったため、対前月比90.9%の実績となった。また対前年同月比も97.9%と厳しい状態が続いている。これらは小規模事業者で顕著にみられた。今後の輸送見通しは次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、大型連休による稼働日数の減少による全般的な輸送減や農産物の出荷時期の終了による「野菜・果物」の輸送減があったことにより対前月比95.1%の実績であった。また、対前年同月比も99.5%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
九州	<p>本月の輸送は、大型連休による稼働率の低下はもとより、土木工事の削減、企業の倒産や経費節減等による影響もあり、全般的に輸送量の減少が目立った。このため、対前月比は95.0%、対前年同月比も96.3%と共に下回った。今後の輸送見通しは次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、引越越し需要の落ち込みによる「取り合わせ品」の輸送減や、大型連休に伴う輸送依頼の減少、稼働率の低下に伴う輸送減等により、対前月比87.7%の実績となったが、昨年に比べ農林水産関係品目の輸送依頼が増加したことから、対前年同月比103.8%の実績となった。今後の輸送見通しは次月及び以降ともに上昇傾向にある。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況 (対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目	運輸局	北	東	新	関	中	近	中	四	九	沖	全 国 計
		海 道	北	潟	東	部	畿	国	国	州	縄	
1. 穀物	増	0	0	1	1	0	0	1	0	2	1	6
	減	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	4
2. 野菜・果物	増	0	1	1	1	0	0	0	0	2	1	6
	減	0	1	1	1	0	0	0	3	7	0	13
3. その他の農産品	増	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4. 畜産品	増	1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4
	減	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	4
5. 水産品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
6. 木材	増	3	2	2	0	1	0	0	0	1	0	9
	減	3	0	1	0	1	1	3	1	5	0	15
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	減	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
9. 金属鉱物	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	3
10. 砂利・砂・石材	増	14	2	1	0	1	0	2	0	2	0	22
	減	3	2	2	1	1	0	3	0	6	0	18
11. 工業用非金属鉱物	増	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	6
	減	2	0	1	0	0	0	1	0	1	0	5
12. 鉄鋼	増	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	4
	減	1	1	3	0	1	1	2	0	4	0	13
13. 非鉄金属	増	0	0	0	0	2	0	0	0	3	0	5
	減	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3
14. 金属製品	増	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3
	減	0	2	2	0	1	0	2	0	3	0	10
15. 機械	増	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	3
	減	0	0	0	2	2	2	1	1	4	1	13
16. セメント	増	2	1	0	0	0	0	0	0	1	0	4
	減	0	3	3	0	1	1	0	1	6	0	15
17. その他の窯業品	増	2	1	1	0	2	0	0	0	0	0	6
	減	0	2	1	0	1	1	0	0	5	0	10

品目	運輸局	北海道	東北	新潟	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
18. 揮発油	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
19. その他の石油製品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	5	3	0	0	1	0	0	0	0	0	9
20. コークス・その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
21. 化学薬品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 化学肥料	増	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	5
23. その他の化学工業品	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
24. 紙・パルプ	増	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	減	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26. 食料工業品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6
27. 日用品	増	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
28. その他の製造工業品	増	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
32. 廃棄物	増	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取り合せ品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
35. その他	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2